

# アルゴコート アルゴセラコート

## 下水・排水におけるコンクリートの劣化

下水・排水から発生した硫化水素を細菌が酸化させて、硫酸が生成されます。その硫酸とコンクリート中の成分が反応して、コンクリートの劣化を引き起こします。覆蓋された又は密閉された換気の不十分な気相部で、より激しく劣化します。



## エポキシライニングによるコンクリートの延命

耐酸性、耐アルカリ性、耐水性に優れたエポキシライニングシステムにより下水処理施設、排水処理施設等のコンクリート構造物の耐用年数を延ばします。



※ライニングの前にコンクリート欠陥部は適切な処理を行なうことが必要です。  
防食技術指針・同マニュアル、防食設計・施工の手引きに記載されています。

# 日本下水道事業団『塗布型ライニング工法の品質規格』、 地域資源技術センター『防食被覆の品質規格』に合格!

アルプコート、アルプセラコートは優れた耐酸性と耐水性、耐アルカリ性をそなえたエポキシ樹脂ライニング材です。

下水処理施設、排水処理施設、薬品槽、排水ピット等のコンクリートの腐食を防ぎます。



## ■ 日本下水道事業団 防食技術指針による分類

( )内は適用する工法

分類	腐食環境	点検、補修、改築時の難易	
		易	難
I 類	年間平均H <sub>2</sub> Sガス濃度が50ppm以上で、硫酸によるコンクリート腐食が極度に見られる腐食環境。	I <sub>1</sub> 類 (D <sub>1</sub> 種)	I <sub>2</sub> 類 (—)
II 類	年間平均H <sub>2</sub> Sガス濃度が10~50ppmで、硫酸によるコンクリート腐食が顕著に見られる腐食環境。	II <sub>1</sub> 類 (C種)	II <sub>2</sub> 類 (D <sub>1</sub> 種)
III 類	年間平均H <sub>2</sub> Sガス濃度が10ppm未満ではあるが、硫酸によるコンクリート腐食が明らかに見られる腐食環境。	III <sub>1</sub> 類 (B種)	III <sub>2</sub> 類 (C種)
IV 類	硫酸による腐食はほとんど生じないが、コンクリートに接する液相が酸性状態になりえる腐食環境。	IV <sub>1</sub> 類 (A種)	

## ■ 地域資源循環技術センター 防食設計による分類

劣化環境分類	環境条件	コンクリート表面のpH指標	硫化水素濃度の指標	二酸化炭素の指標	適用する及び工法 及び 設計厚(mm)
1 種	コンクリートが微生物腐食等により、短期間内に劣化する可能性は少ないが、長期的に二酸化炭素による中性化(炭酸化)等を伴う変質劣化が一般環境以上に進行する可能性がある環境	6以上 7未満	無し又は わずか (概ね 1ppm未満)	1000ppm 以上	<b>1 種</b> エポキシ樹脂 塗り回数2回以上の被覆 0.20以上
2 種	汚水等が嫌気化する可能性があり、低レベルの硫化水素と高濃度の二酸化炭素等の発生により、コンクリートに軽度の微生物腐食等による経時的劣化の可能性のある比較的緩やかな劣化環境	4以上 6未満	低レベル (概ね1以上) (5ppm未満)		<b>2 種</b> エポキシ樹脂 塗り回数3回以上の被覆 0.35以上
3 種	汚水等は嫌気性化し、高レベルの硫化水素が発生し、空中放散する可能性があり、コンクリートが短期間内に微生物腐食による腐食劣化を受ける可能性が高い比較的過酷な劣化環境	4未満	高レベル (概ね 5ppm以上)		<b>3 種(その1)</b> エポキシ樹脂 1プライ積層の被覆 0.70以上 <b>3 種(その2)</b> セラミックパウダー入り エポキシレジンモルタル 塗り回数2回以上の被覆 5.00以上

## 下水道用使用材料



## 農業集落排水用使用材料



### 取扱い上の注意事項

- 火気のあるところでは使用しないで下さい。
- 万が一、火災発生の場合は炭酸ガス、泡又は粉末消火器で消火にあたって下さい。水は使わないで下さい。
- 容器からこぼれた場合、砂を散布して処理して下さい。
- 施工中及び養生中は十分に換気を行い、ミストや蒸気を吸い込まない様にご注意下さい。
- 必要に応じて有機ガス用防毒マスク、保護手袋、保護メガネ等の保護具を着用して下さい。
- 取扱い中は直接皮膚に触れないようにして下さい。触れた場合には石けんでよく洗い落としてください。触れた部分に痛みや外観変化がある場合、医師の診察を受けて下さい。
- 目に入った場合はただちに多量の水で洗い、医師の診察を受けて下さい。
- 万が一飲み込んだ場合、ただちに医師の診察を受けて下さい。
- 取扱い後は手洗い、うがいを行って下さい。
- 保管は直射日光や雨の当たらない、高温にならない場所にして下さい。開封したものは密封して下さい。
- 各製品の配合比は規定の比率を厳守して下さい。
- 混合攪拌したものは可使時間以内に使いきって下さい。(可使時間は高温では短くなり、低温では長くなります。また、混合量が多いと短くなり、少ないと長くなります。)
- 一度に大量に混合すると発熱し煙が発生する場合がありますので注意して下さい。
- 施工環境は温度5℃以上、湿度85%以下となるようにして下さい。
- 詳細な内容が必要な場合、製品安全データシート(MSDS)をご参照下さい。

この資料に掲載する情報、データは当社の試験、研究によるもので、信頼できるものと確信しておりますが、使用方法、使用条件によっては異なる結果となる場合があります。ご使用者各位にて事前に試験、確認、検討のうえでご使用願います。当社の都合によりこの資料の内容を変更することがあります。また用途開発により改版となる場合があります。

## 日米レジン株式会社

E-mail: resin@nichibeiresin.co.jp  
URL: http://www.nichibeiresin.co.jp

■ 本社・工場・研究所	〒596-0013	大阪府岸和田市臨海町15番地	TEL. 072-438-0321	FAX. 072-438-0366
■ 事業本部(営業部・工事部)	〒104-0061	東京都中央区銀座1丁目13-13	TEL. 03-3563-2405	FAX. 03-3563-2219
■ 大阪営業部	〒596-0013	大阪府岸和田市臨海町15番地	TEL. 072-423-8363	FAX. 072-423-8366
■ 福岡営業所	〒815-0031	福岡市南区清水1丁目16-8	TEL. 092-551-6871	FAX. 092-551-6842
■ 札幌営業所	〒063-0836	札幌市西区発寒16条13-5-1	TEL. 011-665-1666	FAX. 011-665-6662
■ 仙台営業所	〒984-0002	仙台市若林区卸町東3丁目4-8	TEL. 022-287-1577	FAX. 022-287-5526
■ 名古屋営業所	〒485-0012	愛知県小牧市大字小牧原新田字樋下1371	TEL. 0568-76-5678	FAX. 0568-76-8590
■ 鹿児島営業所	〒891-0202	鹿児島県鹿児島市喜入中名町999-1	TEL. 0993-45-2574	FAX. 0993-45-3017